

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

「2040年に向けて、攻めながらソフトランディング」 ー2025年グループ方針ー

理事長 織田 正道

人口減少と超高齢社会の進展が顕在化する2025年、私たち医療・介護に携わる者にとつては、大きな節目となります。今後は、医療・介護を取り巻く環境はますます複雑化・高度化し、中でも国が推進する「医療DX（デジタルトランスフォーメーション）」への対応も本格化します。こうした時代の変化にあつてこそ、私たちは新技術や新しい仕組みを前向きに取り入れながら、地域にとつて不可欠なサービスを持続可能なかたちで提供し続ける責務があります。

そのためには「医療DX」と並行して独自の「病院DX」も積極的に進めます。その一環として、昨年から取り組んでいる生成AI技術を活用した電子カルテ文書作成支援システムの試験導入は、医療スタッフの負担軽減と診療の質向上の両立を実現する有望な一歩となりました。本年はこれをさらに発展・深化させ、グループ内の業務効率化とサービス向上を同時に実現する「病院DX」を一層加速させていきます。私たちの役割は、単に病気の治療や介護を提供するだけでなく、利用者やご家族の生活そのものを支え、人生をより豊かにすることです。高度な専門性と温かな心、そして最新技術を組み合わせながら前進します。2040年に向けては「攻めながらソフトランディングする」という考え方が重要です。急性期治療だけでなく、慢性期・在宅ケアやリハビリテーションなど多様化する医療・介護ニーズに積極的に対応することが「攻め」であり、同時に、経営基盤や人材を維持しながら、時代に見合う地域医療を守り抜いていくことが「ソフトランディング」にあたります。具体的には、ICTやAIを活用した新たなサービスモデルの創出や業務効率化など、将来的な健全経営と質の高いケアの両立を図ると共に、地域包括ケアシステムをバックアップし、スタッフの働きがいにも配慮し段階的に変革を進めます。

繰り返すになりますが、2025年以降も地域社会を支える総合ヘルスケアグループとして、私たちは新しい時代の潮流を前向きに受けとめながら、地域の皆さんから信頼されるグループであり続けられるよう、本年も全員が一丸となって前進していきたいと思えます。それでは2025年度のグループ方針と各分野の目標を示します。

◎保健分野

いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病や口コモタイプシンドロームの予防・改善に継続的に取り組み、行政との連携を強化していきます。

◎医療分野

織田病院と高島病院との入院医療の機能分化・連携を推進し、急性期・回復期・慢性期機能の垂直連携の強化。さらに、退院後は

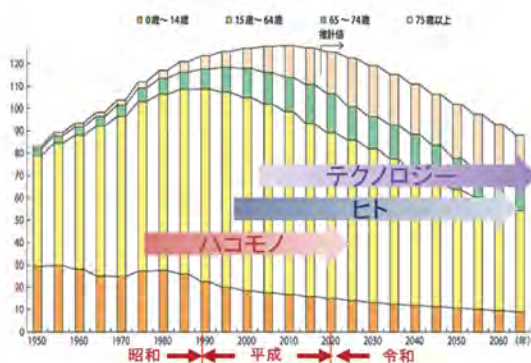
◎2025年グループ方針

「住み慣れた地域で自分らしく最後まで」の実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・医療・介護の各分野が、一体的に提供できるように全分野においてAIとテクノロジーを活用できる人材を育成しDXを推進、『総合ヘルスケアシステム』の構築を進めます。

◎介護分野

いつまでも安心して在宅での暮らしができるように、地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。また、医療や各種介護サービスが機能的・効率的に連携できるよう、デジタル情報の一元化・共有化を図り、業務のDXを推進します。

祐愛会グループの未来投資



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成29年推計)
(注) 1.2016年以降は、将来推計人口。出生中位(死亡中位)推計による。
2.2015年までは総務省「国勢調査」(年齢不詳をあん分した人口)による。

生成AIが切り拓く病院業務のかたち

— 看護サマリー作成時間54.2%削減 —

2022年11月のChatGPT3.5登場以降、生成AI技術は大きな注目を集めています。当院でもChatGPTの活用を検討しましたが、医療機関特有のセキュリティ要件への対応や、カスタマイズ性、各種ガイドラインへの準拠などを総合的に判断し、オンプレミス型の生成AIシステムの導入を決定しました。

この取り組みの第一弾として、看護師の業務負担軽減を目的に、看護サマリーの自動作成システムを導入しました。具体的には、株式会社オプティムの「OPTiM AI ホスピタル」を、当院が使用している株式会社シーエスアイの電子カルテシステム「MI・RA・Is (ミライズ)」と連携させました。看護師の入力作業を抑えるため、生成AIへの指示（プロンプト）をあらかじめ組み込んでおり、ボタン一つで看護サマリーを自動作成できる設計としています。(図1)



情報管理室 課長
森川 伸一

実際に看護サマリーの制度を高める工夫として、「①Ver.1 看護経過記録の要約、②Ver.2 看護経過記録+体温表の観察項目の要約、③Ver.3 看護計画ごとに①と②を要約、④Ver.4 ③に看護計画の評価に加えて要約」を行いました。何度もOPTiM社、株式会社シーエスアイとの意見交換を重ね、現段階のAI看護サマリーが完成しました。

AI看護サマリーを使用することにより、作成時間の短縮が可能になりました。(図2) また、実際に使用した看護師からは、「急な退院でもすぐに作成できるので、サマリーを記載しなければならないという精神的負担が軽減した」などの意見もありました。

病院の特性に合わせた生成AIを活用することで、働き方改革や医療・看護の質向上に対応し、持続可能な地域医療の発展に貢献していきたいと考えています。



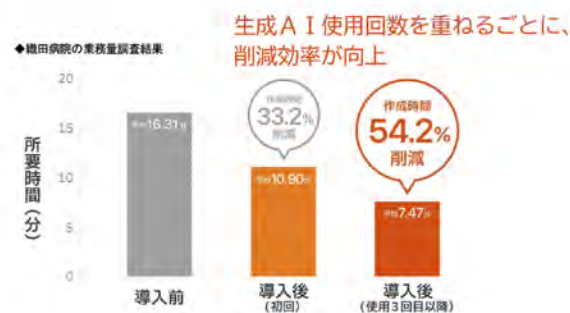
連携センター 副部長
重松かおり

(図1)



※テスト用の画面のため、製品版と異なる場合があります。

(図2)



※テスト用の画面のため、製品版と異なる場合があります。

織田病院の初期臨床研修プログラム 初年度フルマッチ!!!

副院長 織田 良正

織田病院は今までの研修医教育の実績が評価され、2024年4月に県内7番目の基幹型初期臨床研修病院として認定されました。認定後から初期臨床研修医のリクルートが可能となるため、10月24日の医師臨床マッチングまで約半年間という短い募集期間でしたが、幸い初年度からフルマッチ（募集定員最大である2名の医学生がマッチング）となりました。この結果は、祐愛会スタッフ全員の医学生教育に対する協力の賜物と感謝しています。当院の初期臨床研修の質が高く評価された結果であり、今後の医療人財育成において大きな一歩を踏み出したことを意味します。

当院の研修プログラムは、「地域医療の最前線で、最先端の初期研修」がテーマです。地域医療の最前線で、初期研修に必須のプライマリケアを多職種協働で豊富に学ぶことができます。そして、地域密着型の診療を通じて、地域医療の課題やニーズを把握し、医師としての幅広い視野を養うことができます。

さらに、医療DXの取り組みも積極的に進めており、病院内だけではなく、在宅医療の現場などでも最新のデジタルツールを活用しています。初期研修を通じて、今後の医療現場で必須となるデジタル技術や情報活用能力を身につけることができます。

少子高齢化の進む地域であるからこそ、これからの地域医療教育のモデルとなるような研修を行い、全国、世界へ向けて発信していきたいと思っております！皆さま、「織田病院の初期臨床研修」、乞うご期待ください！

令和6年度 研修プログラム別マッチ結果

プログラム名称	定員数	マッチ者数	当該プログラムを希望順位登録した学生数
織田病院初期臨床研修プログラム	2	2	4





3階東病棟開設

看護部長 原崎真由美

令和7年1月改築工事を終え新たに、3階東病棟ができました。急性期治療を終えた患者様が、在宅復帰に向けて安心して療養いただけるよう支援する病棟です。

【療養環境】

病室は個室と多床室があり、多床室もプライバシーへの配慮からパーテーションを採用し空間を確保、部屋ごとのイメージカラーで内装を統一、デイルームには障子を採用するなど療養環境に配慮いたしました。

COVID-19の対応のため一時中断していたDementia Care Unit (DCU、認知症ケア専用病床) をリニューアル、これまでの経験を基に室内中央にテーブル・ソファを配置し、落ち着いた空間で穏やかに過ごしていただけるよう工夫しました。



【DCU】



【個室】

【施設・設備】

全ベッドにスマートベッドシステムを採用し、安全確保と業務の効率化の両立を目指します。スタッフステーションは、一般病棟同様、入退院管理・眠りスキャンを活用した見守り用モニターなどを設置しました。

院内感染防止や洗浄作業の労力削減のためのベッドパンウォッシャーの設置や多機能トイレなど、患者・スタッフ双方がメリットを感じられる設備を導入しました。中でも自身で入浴できない方のためのシャワー入浴装置は、ここが良い入浴ケアの提供と介助のしやすさが両立できると期待しています。



【スタッフステーション】



【浴室】

個々の患者様の疾患・状態に合わせて看護を提供し、多職種・地域の専門職と協働して在宅復帰を目指していきます。地域包括ケア病棟としての本格的な運用は、令和7年8月を予定しています。



診療科Pick Up



乳腺外科



外科統括部長
中村 淳

《資格》

日本乳癌学会乳腺認定医・専門医
検診マンモグラフィ読影認定医（A判定）
乳がん検診超音波検査実施・判定医（A判定）
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師
日本消化器外科学会専門医・指導医 等



院長
伊山 明宏

《資格》

日本乳癌学会乳腺認定医・専門医
検診マンモグラフィ読影認定医（AS判定）
日本消化器外科学会認定医 等

『治療（手術・薬物療法）』

祐愛会織田病院の乳腺外科では、乳がんをはじめとした乳腺に関わる幅広い疾患の専門的な診断と治療を行っています。患者様一人ひとりに寄り添った医療を提供することを第一に、乳がんの早期発見・早期治療を目指すとともに、治療後のケアにも力を入れています。

当院では、最新の3Dマンモグラフィや超音波、MRIなどの画像機器や吸引式乳腺組織生検システム（VAB）を利用した的確な診断が可能です。日本乳癌学会認定の乳腺専門医を中心にがん薬物療法認定看護師や薬剤師を含む多職種連携によるチーム医療を推進し、治療方針を決定する際には患者様と丁寧に相談しながら進めていきます。

手術においては、患者様の負担を最小限に抑えるため、乳房温存手術やセンチネルリンパ節生検などの技術を取り入れており、県内唯一の遠隔病理診断システムを用いた術中迅速病理診断が可能です。また、乳房全摘を余儀なくされる患者様には、形成外科と連携して乳房再建の選択肢も提示しています。周術期の薬物療法は、オンコタイプDXによる再発リスクの評価、さらには遺伝性乳癌の診断（BRCA Analysis）などを行い、患者様一人ひとりに最適な治療を提供します。治療後は、定期的なフォローアップを行い、再発予防やQOL（生活の質）の維持・向上に努めています。

当院乳腺外科は、地域の皆様が安心して乳がんの治療を受けられる拠点として、信頼される医療の提供を心掛けています。

『検査・診断』

当院での乳腺検査はマンモグラフィ、乳腺超音波検査、視触診を行っており、マンモグラフィ装置は、トモシンセシス（3D）機能を備えており、従来の撮影（2D撮影）に3D撮影を加えることで、正常乳腺組織に隠れて見えにくい腫瘍も発見しやすくなり、精度の高い診断が可能となっています。マンモグラフィや乳腺超音波は経験豊富な乳癌学会の専門医およびマンモグラフィ読影認定医が読影を行っています。また、検査は女性技師だけで行っており、日本乳がん検診精度管理中央機構の認定を受けた技師が検査を行っています。また、画質、品質管理、被ばくが基準値を満たし、乳がん検診の質の高さを認められた施設認定を取得しており、安心して検査を受けていただいています。

MMG認定技師
施設認定



ゆうあい公開セミナー

多職種から学ぶ摂食嚥下サポート

3階病棟 看護師 池田のぞみ

「多職種から学ぶ摂食嚥下サポート」をテーマとして、「ゆうあい公開セミナー」を行いました。まず、耳鼻咽喉科医師が解剖学的に「嚥下」について解説し、障害を起こすことで起こる症状について説明、看護師からは「口腔ケアの重要性」、言語聴覚士からは「リハビリの方法」、栄養士からは「嚥下調整食」について具体的に説明を行いました。

私たちの病棟には、「誤嚥性肺炎」で繰り返し入院してこられる患者さまが多数おられ、食事の種類や摂取方法などにつき多職種が連携・協働して最適なケアを提供しています。また、「口腔ケア」に関しても歯科衛生士と一緒に、その人に最も適した方法を考え実践しています。これまで、入院中に行ったケア内容を十分に施設へ伝えることができているのか不安でしたが、今回事前に質問を頂くことで、施設での困りごとに焦点をあてたセミナー内容にすることができました。今後は、より一層個々の患者さまに適したケアが施設・病院間で継続できるように頑張りたいと思っています。



みんなで学ぼう褥瘡予防と治療

リハビリテーション科 有吉 涼一

2024年10月25日、鹿島市生涯学習センターエイブルにてゆうあい公開セミナーを開催しました。「みんなで学ぼう褥瘡予防と治療」というテーマで、初めて会場を4つのブースに分け、参加者が学びたいブースを選択するという形式で開催しました。

4つのブースは形成外科医師・皮膚排泄ケア認定看護師による「DESIGN-Rでの褥瘡評価」、管理栄養士による「褥瘡の栄養管理」、作業療法士による「ポジショニングについて」、皮膚科医師による「相談コーナー」としました。

ブースを分けて開催したことで各演題の発表時間も例年より長くとれ、各会場がコンパクトになったことで参加者との距離が縮まったと感じました。作業療法士のブースでは実演による実技指導を行うことができ、セミナー終了後も個別に質問を受けるなど、少人数が集まって行うことで質問や意見交換がしやすいセミナーになったと思います。参加者からも、「興味があるものをしっかり聞いて良かった」「計測の仕方など実技をみたのでわかりやすかった」というような意見をたくさんいただきました。

褥瘡の予防には、地域の方々と褥瘡に関する知識を共有していくことが大切です。病院での褥瘡治療・管理だけでなく、退院後に自宅や施設において適切な褥瘡予防が継続できるように緊密な連携を行うことが重要です。今後も地域での褥瘡発生ゼロを目指して情報発信を行っていきたいと思います。



地域医療BCPロールプレイング演習

— サイバー攻撃を想定した実践的取り組み

情報管理室 課長 森川 伸一

2024年12月19日（木）、当院副院長が理事を務める一般社団法人地域セキュリティ協議会（ASC：Area Security Council. 以下、ASC）の主催により、サイバーセキュリティの第一線でご活躍されている専門家や佐賀県警と連携し、サイバーセキュリティ対策のための「地域医療BCPロールプレイング演習」を実施しました。

近年、ランサムウェア攻撃をはじめとするサイバー攻撃の増加・多様化に伴い医療システムの停止事例も増加しております。2023年4月には「医療法施行規則」の改正により、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策が義務化されました。しかし、サイバーセキュリティと医療ワークフローの両方に精通した専門人材が不足しており、サイバーへの備え方が「わからない」医療機関も少なくありません。

ASCと協力で当院で行ったロールプレイング演習を検証し、各部署における緊急時紙カルテ運用など演習内容をさらに拡充していく予定です。その成果をもとに、一医療機関にとどまらず、業界全体でより強固なサイバーセキュリティ体制の構築を目指してまいります。



クローズアップ

言語聴覚士 吉村義誠さんに
インタビュー



Q0. 自己紹介をお願いします。

普段病院では聴力検査や人工内耳のマッピング、嚥下や言語面のリハビリ等を行っています。

Q1. 手話通訳士とはどのような仕事でしょうか？

音声を手話に翻訳し聞こえない人（ろう者）へ伝える、もしくはろう者が手話で話したことを音声または日本語にして伝える仕事です。

手話通訳に関する資格は2種類ありますが、その中でも手話技能認定試験と呼ばれる試験に合格した人を手話通訳士と呼びます。



Q2. SAGA2024国スポ、全障スポで手話通訳士として活動されましたが、活動されてみていかがでしたでしょうか？また今後の抱負などお聞かせください。

国スポの自転車競技、全障スポの開閉会式、アーチェリー競技で合計5日間通訳を行いました。私自身は自転車もアーチェリーも今まで経験したことのないスポーツで、まずはルールを覚えるところから始まりました。しかしルールを覚えるだけでは細かなニュアンスまで伝えることは難しく、初めのうちは伝わらないことも多くありました。特に自転車競技は誤った内容を通訳してしまうと怪我に繋がるため、正確に伝えなければいけないというプレッシャーが強かったです。幸いにも大きな事故なく大会が終了したため、終了後は安堵の気持ちでいっぱいでした。

今回の通訳活動を通して、たとえ知識のない分野であったとしても今後通訳依頼が来たらできる限り引き受けていきたいと感じました。そして、ろう者が社会参加しやすい環境が広がるよう貢献していきたいです。

また、手話通訳士としてろう者の支援を行うだけでなく、聞こえに困難感を抱えるすべてのの方に適切な支援が行えるそんな言語聴覚士になりたいと思っています。



New Uniform

2024年10月より新しくなりました！



管理栄養士



理学療法士



看護師



放射線技師



助手



看護師



薬剤師



臨床検査技師

第29回 祐愛会研究発表会

テーマ「サービス改善 ～ Get back to fundamentals ～」

令和6年11月30日に、第29回祐愛会研究発表会（QC発表）を開催しました。今年は昨年完成したばかりの鹿島市民文化ホールSAKURASを会場に、織田病院、ゆうあいビレッジ、高島病院清涼荘から全14演題の発表と祐愛会理事長からの特別公演「近未来に向けて」を執り行いました。真新しい会場だったこともあり、演者や会場の参加者も含め初め緊張した面持ちでしたが、次第と緊張もほぐれ活発な質疑応答があり、今年の研究発表会も大盛況で幕を閉じました。



優秀賞

患者第一のリハビリガイド術 ～患者ケアの冒険～

リハビリテーション科 松尾 聡美

今回のQCの取り組みとして、患者様に対して十分な説明と、スタッフの不安を軽減できるように取り組みを行いました。今後も新人スタッフの指導に活用できるようにマニュアルを使用しながら継続出来ればと思っています。



優秀賞

Mistake ～皆で無くそう～

高島病院 3階病棟 栗山智恵子

今回優秀賞に選んでいただきありがとうございました。衣類管理に関しては今でも間違いゼロで経過しています。今後、他の課題にも目を向け日々の業務がスムーズに行えるように工夫していきたいと思います。



優秀賞

健康な身体づくり ～小規模に運動の力を～

小規模多機能ホーム 山口 健

今回優秀賞を受賞し、職員一同大変光栄に思っています。QC活動を通して、部署内での連携も図れ、スタッフ一同積極的に取り組めたと感じています。今後もスタッフ内で声掛けをし継続していきたいと思っています。次回の人間ドックでいい結果が得られると信じています。



特別優秀賞

4施設の栄養科合同による 業務改善に向けた取り組み

栄養食事サービス部 奥野 彩香

素晴らしい賞を頂き、スタッフ一同大変嬉しく思っています。4施設の全栄養科で取り組み、自部署だけでは出なかったアイデアや解決策が生まれ、刺激ある有意義な時間となりました。この賞を糧に今後も励んでいきたいと思っています。



合格おめでとう (2024年4月～12月)

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得(合格)日
森 純二	織田病院 リハビリテーション科	介護支援専門員	2024.11.25
武富 智樹	織田病院 リハビリテーション科	AMAT隊員養成研修	2024.12.14
百武 成美	織田病院 放射線科	検診マンモグラフィ撮影認定試験	2024.8.18
執行菜々実	織田病院 放射線科	検診マンモグラフィ撮影認定試験	2024.8.18
喜多ひかり	織田病院 栄養食事サービス部	調理師	2024.12.13

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得(合格)日
古田 紗加	織田病院 栄養食事サービス部	調理師	2024.12.13
宮崎 真由	織田病院 栄養食事サービス部	介護支援専門員	2024.11.25
小ヶ倉真一郎	ゆうあい 2階療養棟	介護支援専門員	2024.11.25
笠原翔太郎	ゆうあい 通所リハビリテーション	介護支援専門員	2024.11.25

2025年はグループ方針にも示されたように、AIとテクノロジーを活用できる人材育成が進み、DXの飛躍の年になることが期待されます。本年もスタッフ一丸となってDX推進に取り組んでいきましょう！

その他、昨年はサイバー攻撃に対するロールプレイング訓練も行われ(6面参照)、DX人材の育成が進んでいきます。また、様々な生成AIを活用して、文章作成やスライド作成、PDF要約などを行っているスタッフも徐々に増えてきています。

また、2面でも取り上げましたオンラインミステ型の生成AIの実証実験でもスタッフの負担軽減の効果が実証されました。また、様々な生成AIを活用して、文章作成やスライド作成、PDF要約などを行っているスタッフも徐々に増えてきています。

広報ブランド管理委員会
坂田 善和

編集後記